

真珠平均単価 5割近く上昇

アコヤ貝による真珠養殖は英虞湾を中心に発展し、昭和三十年代に県内の養殖業者が愛媛県などに進出した。農林水産省によると、真珠養殖業の経営体数（二〇一八年）は全国で六百十五体で、うち三重が全国最多の二百五十四体を占める。

経営体数は三十年前と比べ、全国で約七割、三重で約八割減った。一九九〇年代に感染症の影響でアコヤ貝が大量死し、生産量が激減したことが最大の要因だ。生産量は、二〇一九～二一年にも新種のウイルスの影響で減少した。

一方、中国や欧米など海外の需要は旺盛で、浜揚げ単価は上昇している。一五～一九年の全国の輸出額は、一二年の約二倍の三百億円超で推移した。二〇年はコロナ禍で国際取引の場が縮小したが、その後回復した。二一年度の浜揚げ入札会では、平均単価が前年度より五割近く上昇。今年一月から三月の入札会でも、高値の取引が期待される。

政府は、日本の真珠養殖・加工技術が国際的に高い評価を受けているとして、真珠を二〇年に輸出重点品目に、二一年に戦略的養殖品目に指定し、生産や輸出を後押ししている。

今年、御木本幸吉氏が鳥羽市で世界初の半円真珠養殖に成功してから百三十周年だ。世界に誇れる真珠産業の復興に期待したい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上 千賀子）

主要産地別の真珠生産量(浜揚げ量)の推移



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2023年2月9日